

TX つくばエクスプレス 中期経営計画 (2025~2029年度)

2025年3月 首都圏新都市鉄道株式会社





何世代にもわたって 愛される鉄道へ

地域密着型の鉄道として「共創」をキーワードに、
時代や技術革新に柔軟に対応した
「安全・安定・安心」の輸送サービスの進化、
沿線の自治体、企業や地域コミュニティの皆様とともに、
ネットワークを活用した沿線価値の向上に取り組んでまいります。

 つくばエクスプレス

中期経営計画

(2025～2029年度)

- 1 事業環境
- 2 本計画の位置付け
- 3 テーマ・基本方針
- 4 主な取組み
- 5 設備投資
- 6 経営指標・非財務指標

1 事業環境

当社の現況

- コロナ禍で輸送人員、営業収入ともに大きく落ち込みましたが、足下ではコロナ禍前の水準まで回復し、それに伴い混雑率も増加傾向にあります。
- 開業時から使用している車両や設備等が一斉に老朽化、大規模更新を控えています。
- 鉄道・運輸機構に対するTX建設費に係る債務について、2024年度末までに3,000億円以上を返済しましたが、約4,000億円の残債があり、2047年度までの23年間で返済予定です。
- 社員の世代交代が進み、中核人材・専門人材の確保・育成が求められています。

外部要因

人口動態

- 日本全体では、少子化及び超高齢化が進み、人口減少時代に突入しています。
- TX沿線の土地区画整理事業が概成、沿線開発が堅調に進展し、沿線自治体の人口増加は当面継続する見込みです。

経済状況

- 賃金・物価上昇、金利のある世界が到来も、長期間続いたデフレからの完全な脱却に至っていません。
- 地政学リスク(ヨーロッパ、中国、中東等)により資源・資材価格が高騰しています。
- インバウンド需要は今後も継続する見込みです。
- TX沿線地域では最先端の教育・研究拠点や産業等が集積しています。

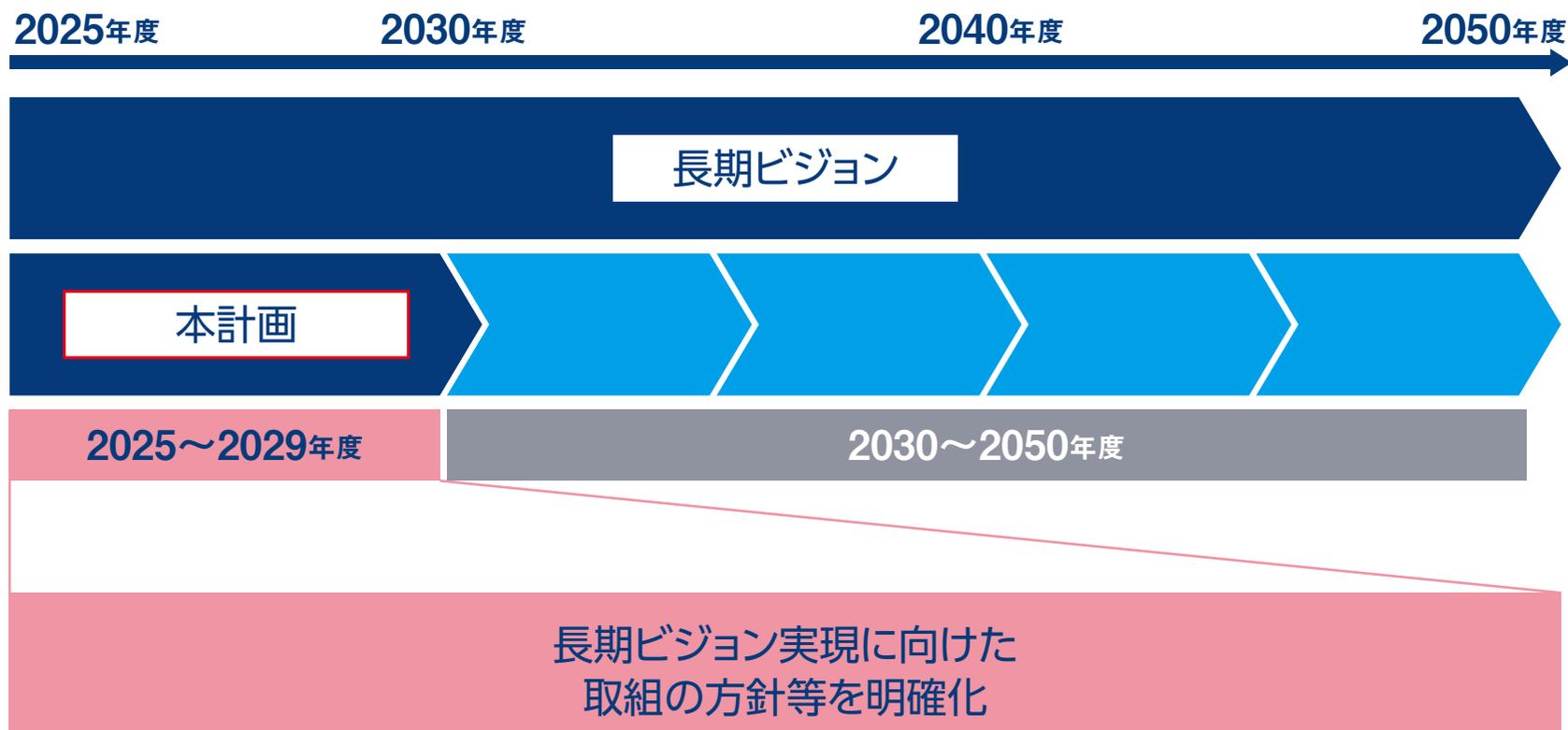
社会状況

- 頻発・激甚化する台風や豪雨、切迫する巨大地震など、自然災害への備えが重要になっています。
- 気候変動リスクへの対応、ESGsや脱炭素の取組みの強化が求められています。
- 働き手不足のなか、ダイバーシティ&インクルージョンや働き方改革が推進されています。
- 人的資本投資の推進やデジタル技術やAI等の活用による生産性向上が求められています。

2 本計画の位置付け

本計画は、当面5年間(2025～2029年度)の取組の方針等を取りまとめたものです。計画期間は、長期ビジョンの実現に向けて、より長期的視野にたって経営を進めていくため、5年間としました。

なお、長期ビジョンは、2025年7月に公表予定です。



3 テーマ・基本方針

TXは、2025年8月、開業から20年を迎えます。

今後とも、「安全・安定・安心」輸送の維持・向上を図り、リスク管理と安全管理体制の強化、予防保全による鉄道設備等の経年劣化等への対応等により、お客様に安心と信頼の鉄道輸送を提供してまいります。また、今後の沿線地域のさらなる成長や沿線価値の向上に向けた、地域の関係者との連携強化のための基盤づくりに取り組みます。

こうした取組みを通じて、将来にわたり沿線とともに成長し、世代を超えて愛される鉄道でありたいという思いを込めて、本計画では、以下のようにテーマ、基本方針を設定しています。

テーマ

安心と信頼の鉄道輸送の堅持と沿線価値共創のための基盤づくり
～沿線とともに成長し、世代を超えて愛されるTXへ～

基本方針

- I. リスク管理と予防保全により、安心と信頼の鉄道輸送を提供します
- II. 豊かな暮らしを支えるサービスの提供に努めます
- III. 沿線地域をつなぐ鉄道として、地域と共に沿線価値のさらなる向上に取り組みます
- IV. 持続的な事業運営のため経営基盤の強化を図ります

4 主な取組み

安心と信頼の鉄道輸送の堅持と沿線価値共創のための基盤づくり

～沿線とともに成長し、世代を超えて愛されるTXへ～

I

リスク管理と予防保全により、
安心と信頼の鉄道輸送を提供します

- リスク管理と安全管理体制の強化
- 予防保全による車両・設備の更新等の実施
- 防災・鉄道セキュリティ対策の強化
- 駅利用における安心の向上

II

豊かな暮らしを支えるサービスの
提供に努めます

- 混雑緩和対策の実施
- お客様の利便性・快適性の拡充
- 駅構内事業の充実

III

沿線地域をつなぐ鉄道として、
地域と共に沿線価値のさらなる向上
に取り組みます

- 沿線地域との連携強化のための基盤づくり
- 駅機能や保有資産を活用した沿線価値の向上
- 交通政策審議会答申プロジェクトへの対応

IV

持続的な事業運営のため経営基盤の
強化を図ります

- 人的資本投資の強化
- 財務基盤の強化
- ガバナンスの強化

I リスク管理と予防保全により、安心と信頼の鉄道輸送を提供します

これからも安心と信頼の鉄道輸送を提供するため、リスク管理と安全管理体制の強化と、当初から使用している車両や鉄道設備等の経年劣化に伴う予防保全による設備更新等を実施します。また、近年多発する豪雨等の異常気象や首都圏直下地震等の自然災害の脅威を認識し、防災対策の強化や輸送障害等の未然防止・鉄道セキュリティ対策の強化を推進します。さらには、お客様が常に安心して駅をご利用できるよう設備等の改善・改修を推進します。

リスク管理と安全管理体制の強化

- 運輸安全マネジメントのさらなる充実
- 組織的なリスク分析・管理の強化
- 実践的な各種訓練の充実・強化
- 安全に関する人材育成強化



異常時総合訓練の様子



乗務員養成所

予防保全による車両・設備の更新等の実施

- 車体・車両機器の更新
- きめ細かなレール探傷結果に基づくレール削正と交換の実施
- 変電所の更新
- 信号設備の更新
- ホームドアの更新
- デジタル技術を活用した保守等の高度化の検討



車体更新場での更新



レール探傷

防災・鉄道セキュリティ対策の強化

- 防災設備の更新
- 大規模浸水対策の継続検討
- 鉄道セキュリティ対策の推進



駅防災設備



車内防犯カメラ



防犯訓練

駅利用における安心の向上

- バリアフリー対策の推進
- ホーム待合室の改修等
- 駅誘導サイン改善の実施
- お客様対応力の強化



駅ホームの隙間対策ゴム



視覚障害者の案内誘導の実証実験



ホーム待合室



整列乗車サイン

Ⅱ 豊かな暮らしを支えるサービスの提供に努めます

TX開業20年を迎え、沿線の土地区画整理事業は概成してきました。当社は、この間、輸送サービスの向上や駅構内等のサービスの充実を推進してきました。今後も、時代の変化に対応した豊かな暮らしを支えるサービスをお客様や沿線の皆様に提供してまいります。

混雑緩和対策の実施

- 8両編成化事業の推進
- 8両編成化に対応した総合基地整備事業の推進
- 新造車両(TX-4000系)の検討
- 混雑状況に関する情報提供の充実



総合基地



8両編成化に対応したホーム延伸工事

お客様の利便性・快適性の拡充

- QR乗車券システム及びクレジットカード等によるタッチ決済システムの導入
- TXアプリの導入
- 駅における情報提供・情報発信の充実・強化



QR、タッチ決済リーダー イメージ



TXアプリ イメージ

駅構内事業の充実

- コンビニエンスストアの新規設置
- 地元中小企業を含む出店者のすそ野拡大を通じた催事の強化
- TXアベニューの新規開発の検討



駅構内催事販売



TXアベニュー八潮(2024年リニューアル)

Ⅲ 沿線地域をつなぐ鉄道として、 地域と共に沿線価値のさらなる向上に取り組みます

当社はお客様や沿線自治体や企業等の皆様に支えられて成長してきました。これからも沿線地域をつなぐ鉄道として、沿線地域の活性化や沿線全体の成長等、沿線価値向上のため、地域との関わりを深めるとともに、駅の機能の充実や保有資産の利活用等を推進します。

沿線地域との連携強化のための基盤づくり

- 沿線価値共創に向けた地域の関係者との連携体制の構築
- 沿線の見どころや魅力の情報発信体制の強化
- 産業・研究・スポーツ・文化等における地域連携
- ESG・SDGsへの取組みの推進



TX 沿線トリップウォーク

沿線の魅力再発見
参加費無料 参加自由
Let's GO!

第1回	約 7.5 km 約 2 時間 30 分	江戸川から二郷半領用水路へ 三郷のウォーターフロントを歩く
11/23	スタート・ゴール 三郷中央駅 スタート受付 9時~11時 ゴール受付時間 11時~15時まで	
第2回	約 4.6 km 約 1 時間 30 分	かつて白みりんの醸造で栄えた情緒あふれる流山本町を歩く
12/7	スタート 流山セントラルパーク駅 ゴール 亀渡山駅 スタート受付 9時~11時 ゴール受付時間 11時~15時まで	

TX つくばエクスプレス
TX沿線トリップウォーク



自然環境保全活動



八潮夜市



対外講義の実施

駅機能や保有資産を活用した沿線価値の向上

- 地域の関係者と連携した、「駅」の機能の改善・充実
- 沿線全体の発展に向けた高架下をはじめとした保有資産の利活用の推進



駅機能のあり方勉強会



高架下の利活用

交通政策審議会答申プロジェクトへの対応

- 都心部・臨海地域地下鉄構想に係る検討の動向を注視するとともに、同構想とTXの東京駅延伸との接続の実現を含めた関係者の取組みのなかで適切に対応

Ⅳ 持続的な事業運営のため経営基盤の強化を図ります

人的資本投資を強化して、従業員のエンゲージメント、デジタル技術を活用した生産性、採用市場での魅力等の向上に資する取組みを積極的に推進します。また、将来にわたり、安心と信頼の鉄道輸送の維持・向上と子育て世代が沿線に住み続けてもらえるような戦略的な運賃の検討や資金管理・調達の強化を推進します。さらに、内部統制や情報セキュリティ対策のガバナンス強化を推進します。

人的資本投資の強化

- 多様な働き方を可能とする就労環境の充実や健康経営等の継続推進
- 自律的キャリア形成の支援
- デジタル技術を活用した業務支援の充実



八潮総合事務所



研修の様子

財務基盤の強化

- 戦略的な運賃の検討
- 資金管理の強化



ガバナンスの強化

- 既存の業務プロセスの改善
- 情報セキュリティの強化



5 設備投資

4つの基本方針を着実に推進するために要する設備投資は、2025～2029年度の5年間に合計660億円を計画しています。

「IV 経営基盤の強化」関連

60億円

- 各駅事務室等の増改修工事
- 教育訓練設備の増改修工事
- 業務のデジタル化 他

「III 沿線価値の共創」関連

36億円

- 駅高架下商業施設開発
- 駅間高架下賃貸建物整備 他

「I 安心と信頼の鉄道輸送」関連

315億円

- 大規模機器更新
- 変電所更新工事
- 運転保安装置更新
- 信号設備更新工事
- ホームドア更新 他

「II 豊かな暮らしを支えるサービス」関連

248億円

- 8両編成化事業
- 総合基地整備事業
- QR乗車システム、
クレジットカードタッチ決済
システム等導入 他



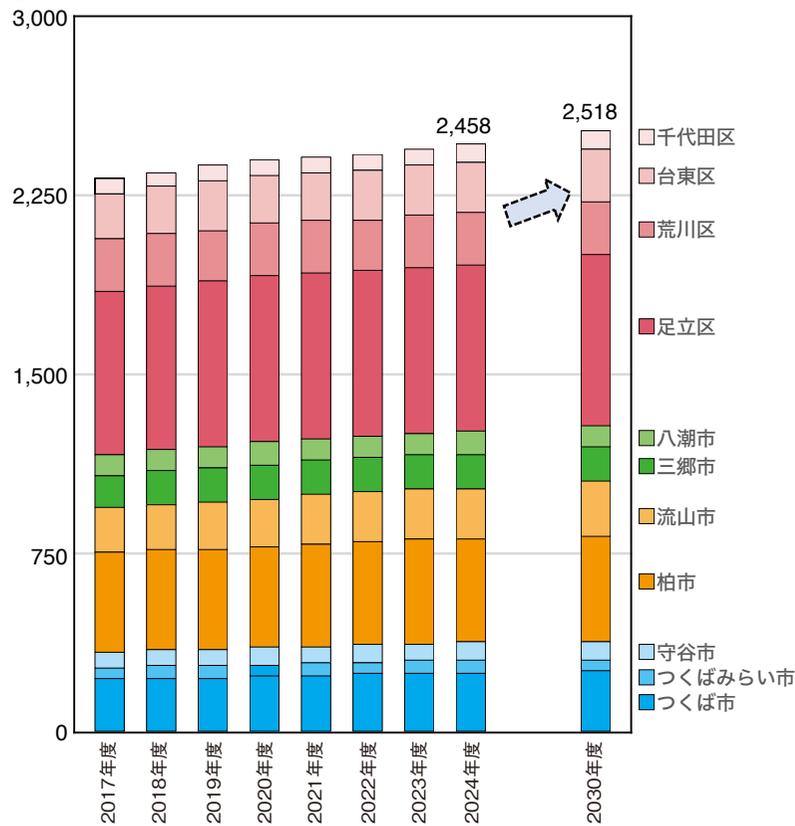
8両編成化関連事業について

- 抜本的な混雑緩和対策として、2030年代前半の供用開始を目指して2019年度から推進しています。朝ラッシュ時間帯に適切な8両編成車両数を投入することにより、混雑率の低減が見込めます。
- 8両編成化を実現するため、各駅のホーム延伸、機械設備改修・増設、信号通信設備の増設、総合基地諸設備の増設、変電所設備の改修・増設、八潮留置線の延伸などの工事を実施します。また、これに伴い、総合基地について、新規に用地取得のうえ、留置線・組成線・保守基地などを拡充、整備します。
- 本計画期間は、駅ホーム延伸工事に約148億円、総合基地整備に約49億円を投じる予定です。

6 経営指標・非財務指標

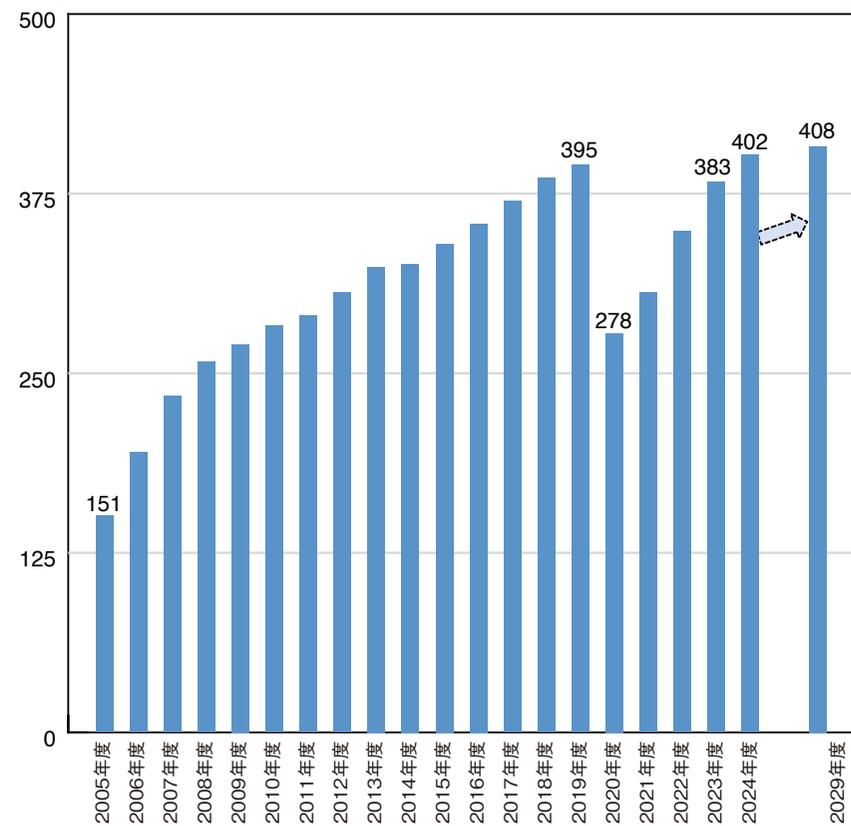
TX沿線で進められている土地区画整理事業は概成しましたが、今後も当面は沿線人口の増加が見込まれています。一方で、コロナ禍を経て、働き方や生活スタイル等の変化が定着しています。こうした状況を踏まえた2029年度の一日平均乗車人員は約41万人となる見込みです。

沿線11市区の人口の推移(千人)



※ 各年4月1日時点の住民基本台帳人口等に基づき作成(2030年は社人研データ参照)

一日平均乗車人員の推移(千人/日)



※ 2024年度、2029年度は見込み値

本計画の最終年度(2029年度)の一日平均乗車人員の見込みを踏まえた営業収益は538億円、営業利益は98億円、経常利益は74億円、有利子債務残高/EBITDA倍率は12倍を見込んでいます。

	2023年度 実績	2024年度 実績(暫定値)	2029年度 見込み
営業収益	452億円	476億円	538億円
運輸収入	434億円	457億円	514億円
運輸雑収入	19億円	19億円	24億円
営業損益	86億円	92億円	98億円
経常損益	63億円	67億円	74億円
EBITDA	246億円	248億円	262億円
鉄道・運輸機構債務残高	4,357億円	4,163億円	3,199億円
有利子債務残高/EBITDA倍率	18倍	17倍	12倍

運輸収入の推移(億円)



本計画では、以下の非財務指標を設定し、着実に取り組んでいきます。

	項目	指標、目標
鉄道輸送関連	鉄道運転事故	計画期間を通じて自社起因によるもの 0件
	輸送障害	
	インシデント	
人的資本関連	女性採用率	最終年度（2029年度） 15%以上
	男性育休取得率	最終年度（2029年度） 85%以上
	有給取得率	最終年度（2029年度） 85%以上



<注意事項>

本計画に記載している数値・取組みなど将来に関する記述は、現在当社が入手可能な情報などに基づき、現時点で行った独自の見込みであり、実際には様々な要因により大きく異なる結果となる場合があることをご承知おき下さい。また、本計画に記載している取組みは事業環境等を踏まえ、適宜、変更する場合があることをご承知おき下さい。